

直接被覆による「山の息吹」の荒茶色沢の改善

[研究のねらい]

- ・「山の息吹」は、軽やかな香りを持ち、渋みが少なく上品な旨味をもつ早生の優良品種である。
- ・県内平坦地域で、新芽の色がやや黄色みを帯び、荒茶の色沢がやや黄緑色になりやすい。
- ・濃緑な「山の息吹」が求められているため、直接被覆により荒茶の色沢を改善する。

[研究の成果]

- ・「山の息吹」を直接被覆することにより、生葉の色が濃緑になり、荒茶の色沢が改善する。
- ・被覆による減収や生育の遅れの影響を少なくするためには、「山の息吹」の新芽が3葉期を過ぎてから、遮光率60~80%の資材を、5~8日間直接被覆する(表1)。
- ・被覆期間が長すぎると渋みを呈す成分であるタンニンの含有率が減少するため、元々渋みの少ない「山の息吹」の滋味はやや薄くなることに注意する(図1)。

直接被覆による生葉の色の改善
(資材:遮光率85%)



表1 被覆時期と期間が収量に及ぼす影響

被覆		収量 kg/10a
時期	期間	
—	0日	503(100)
3.4葉期	5日	475(94)
2.9葉期	8日	389(77)
2.5葉期	11日	363(72)
<hr/>		
—	0日	709(100)
3.8葉期	5日	681(96)
3.4葉期	8日	659(93)
2.9葉期	11日	600(85)

<3葉期を過ぎてから、5~8日間被覆すると収量への影響が少ない>



図1 被覆期間とアミノ酸、タンニンの変化(荒茶)

<旨み成分のアミノ酸が増え、
渋み成分のタンニンが減る>

問い合わせ先 栽培技術開発 0548-27-2884
代表 0548-27-2880
E-mail: ES-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp